

活動主題 「『平家物語』を学ぶ意味を明らかにする」

活動の価値

教科書に掲載されている古典はどれも、当時愛読されただけでなく、長きにわたって読み継がれてきた、つまり長きにわたって生きてきた作品たちである。それは、古い言葉や文化について学ぶことができるというだけでなく、人間はいかに生きてきたのか、いかに生きるべきなのかといった、普遍的且つ根本的な問題を考えさせるものでもあるからだと考える。『平家物語』は、七五調を中心とした調子のよい文章と、和文と漢文を融合した文体（和漢混交文）は、古文特有のリズムと表現を楽しむのに最適である。登場人物の心情や生き方が表れる劇的な場面を多く有し、時代を超えても自分と似通っていると感じる部分があれば、時代が違うところも違うのかと気付かされる部分もあり、人間に対する見方や考え方を深めることができる作品である。また、有名な冒頭部分をはじめ、『平家物語』全体を貫く「無常観」は、全て存在するものは絶えず移り変わっていると観察する人生観、世界観である。これは、永遠なるものを追求する西洋思想に対し、移ろいゆくものに美しさを感じる日本人特有の感覚にもつながる。『平家物語』を学ぶ意味を明らかにする本活動は、今後出合う古典作品との関わり方の礎を築く活動でもあり、大変意義深いと考える。

本活動は、『平家物語』の『敦盛の最期』『扇の的』『弓流』に表れた登場人物の人物像を捉え、自分と比較することを通して『平家物語』を学ぶ意味を明らかにする活動である。本活動を通して、古典の世界に親しみ、且つ、現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。また、『平家物語』を通して理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。さらに『平家物語』が持つ価値や学ぶ意味を理解することができるため、意義深い活動である。

子どもの実態

本学級の子ども（〇名）は、1年次の『伊曾保物語』や『竹取物語』において、言葉や表現に注意して音読し、古典の世界に触れている。2年次では『枕草子・徒然草』において、筆者のものの見方や考え方を捉えている。事前のアンケートでは、「『竹取物語』の授業で覚えていることは何か」の問いに、「暗唱」が〇名、「歴史的仮名遣い、係り結びの法則」が〇名、「粗筋」が〇名、「登場人物の気持ち」は〇名であった（複数回答可）。一方で、「古典を学ぶことは楽しいか」の問いには、「かなり」が〇%、「まあまあ」が〇%、「あまり」が〇%名、「全く」が〇%であった。その理由は、「昔の言葉を知ることができるから」、「読めたときに達成感があるから」、「文章の意味が分からないから」、「何に役立つのか分からないから」などがあつた。また、『字のない葉書』の父の言動から心情や人物像を読み取る問題では、正しく読み取れた子どもが〇%、正しくない、もしくは解釈が不十分な解答をした子どもが〇%いた。

以上のことから、子どもたちは『竹取物語』においては、月へ帰るかぐや姫やそれを見送る翁と嫗などの登場人物の気持ちを読み取った学習よりも、暗唱や今とは違う言葉遣いなどが印象に残っていることが分かった。また、古典が何の役に立つのか、古典を学ぶ意味は何なのかが分からない子どもがいることも分かった。加えて、登場人物の言動から心情や人物像を読み取る活動も必要であることが分かった。そこで本活動では、登場する武士の言動等から心情を想像したり人物像を捉え自分と比較したりすることで、『平家物語』を深く読ませたい。当時の人間の考え方や生き様を読み取り、今を生きる自分と似通った部分や全く違った部分を見出すことができるよう指導する必要がある。

活動の指導観

本活動では、『平家物語』を読み深めることができるようにするとともに、『平家物語』を学ぶ意味を明らかにすることができるようにすることをねらいとする。

- ・一次では、学習課題を設定することができるように、『平家物語』の成立時代を確認し、なぜ750年以上前の武士の話私たちが学ぶのかを問う。
- ・二次では、『平家物語』を読み深めることができるように、登場人物の人物像と自分を比較する場を設定する。
- ・三次では、『平家物語』を学ぶ意味を明らかにすることができるように、前時を振り返ったり、冒頭文に表れる無常観が現代にも通ずる人生観であることを確認したりする場を設定する。

○ 子どもの学習目標

○ 教師の指導目標

なぜ『平家物語』を学ぶのかを 『平家物語』を読み深めることができるようにするとともに、『明らかにすることができる。 平家物語』を学ぶ意味を明らかにすることができるようにする。

活動計画（7時間）

次	時	学習活動・内容	子どもの問いと思考	指導のねらい・内容・方法
一	1	1 学習課題を設定する。 ① (1) 『平家物語』について知る。 ・鎌倉時代成立 ・作者未詳 ・軍記物語 ・琵琶法師 ・平曲 ・平家の興亡の流れ (2) アンケート結果を共有する。 ・古典を学ぶ意味 ・古典離れ (3) 学習課題を設定する。	『平家物語』をどうして学ぶのかな。	学習課題を設定することができるようにする。 ・学習課題を設定することができるように、『平家物語』の成立時代を確認し、なぜ750年以上前の武士の話を私たちが学ぶのかを問う。 ・学びの変容を子どもたち自身が自覚するように、学習課題に対する現時点での自分の考えを書く場を設定する。
		学習課題 なぜ私たちは『平家物語』を学ぶのか明らかにしよう。	学ぶ意味を探っていくぞ。	
二	1	2 『平家物語』を読み深める。 ② (1) 『敦盛の最期』の内容を掴む。 ・敦盛の武士としての生き様 ・直実の親としての葛藤 (2) 『扇の的』『弓流』の内容を掴む。 ・状況の把握 ・与一の心情 ・文体の特徴 ・戦の非情さ	『平家物語』はどんな話なのかな。	『平家物語』を読み深めることができるようにする。 ・内容が読み取れるように、古典特有の言葉を理解したり、本文と現代語訳を照らし合わせて読んだり、正確に主語を読み取ったりすることができるよう学習プリントを工夫する。
	2	3 登場人物を選び、選んだ登場人物の人物像を明らかにする。 ② (1) その登場人物の人物像が表れている言葉や表現を探し、読み取った人物像と解釈を書く。 ・人物像を表している言葉や表現を吟味する思考 ・登場人物の言動の裏にある心情 (2) 登場人物の人物像と自分を比べる。 ・登場人物を自分を比較する視点 ・共通点や相違点	どの言葉や表現が直実の人物像を表しているのかな。 直実の人物像には共感するところと全く共感できないところがあったな。	・人物像を捉える視点である「登場人物の言動」に気付くことができるように、『字のない葉書』の授業を想起する場を設定する。 ・登場人物の人物像を明らかにすることができるように、人物像を読み取る視点を提示する。 ・『平家物語』を読み深めることができるように、登場人物の人物像と自分を比較する場を設定する。
三	1	4 学習課題に対する自分の考えを意見文にまとめる。 ② (1) 『平家物語』の冒頭部分を音読し、内容を理解する。 ・和漢混交文 ・無常観 (2) 自分の考えを意見文にする。 ・作品の価値 ・学習する価値 ・意義思索型意見文 (3) 意見文を読み合い交流する。 ・考えを伝えようとする態度	『平家物語』をなぜ学ぶのかな。 『平家物語』を読むからこそ当時の武士の価値観が分かったし、今の私と通じる価値観もあったな。他の古典はどうだろう。	『平家物語』を学ぶ意味を明らかにすることができるようにする。 ・『平家物語』を学ぶ意味を明らかにすることができるように、前時を振り返ったり、冒頭文に表れる無常観が現代にも通ずる人生観であることを確認したりする場を設定する。 ・『平家物語』を通して学んだことを自覚化するために、最初の考えと比較したり、交流したりする場を設定する。

本時
1/2



本時 第2学年〇組教室 第二次の2時(1/2)

本時の指導観

前時までには子どもは、『平家物語』の『敦盛の最期』『扇の的』『弓流』の内容を捉え、読み深めている。そこで本時は、『敦盛の最期』『扇の的』『弓流』に登場する登場人物の人物像を明らかにする活動を設定する。

主眼

登場人物の人物像を捉え、次時への学習につなげることができるようにする。

本時の過程

学習活動・内容	指導のねらい・内容・方法	形態	配時
<p>1 本時の学習の方向性を確認する。</p> <p>(1) 今までの学習した場面を振り返り、登場した武士を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粗筋や登場人物の想起 『敦盛の最期』敦盛(平)直実(源) 『扇の的』与一(源) 『弓流』義経(源) <p>(2) めあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">登場人物の人物像を明らかにしよう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">本時の学習の見通しを持つことができるようにする。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の見通しを持つことができるように、既習の各場面を想起した上で、どんな人物像だったかを問い、なぜそう言えるのかと切り返す。 	一斉	10
<p>2 登場人物の人物像を読み取る。</p> <p>(1) 『字のない葉書』を想起する。</p> <p>【人物像を読み取る視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言動 <p>(2) 登場人物の人物像を表している言葉や表現探し、解釈を書く。</p> <p>【人物像を読み取る視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身に付けている物(武具・笛) ・何に葛藤するのか ・何にためらいがないのか ・何を大事にしているのか ・設定 <p>【期待される子どもの反応】</p> <p>「人手にかけまゐらせんより、同じくは、直実が手にかけまゐらせて、後の御孝養をこそつかまつり候はめ」 →自分の息子と重ね合わせて、大事に葬ろうとしている情に厚い人物。</p> <p>(3) 読み取った人物像を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とは違う箇所を根拠にしている級友の考え ・自分とは違う人物を選んだ級友が読み取った人物像 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">登場人物の人物像を明らかにすることができるようにする。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・人物像を捉える視点の一つである「登場人物の言動」に気付くことができるように、『字のない葉書』の後半のエピソードで、父の言動に着目し、その言動の真意を考えたことで人物像が見えてきたことを想起する場を設定する。 ・登場人物の人物像を明らかにすることができるように、人物像を読み取る視点を提示する。 ・同じ登場人物を選んだ級友同士で交流ができるように、席を立てて移動してよいこととする。 ・『平家物語』には、登場人物の心情や生き方が表れる劇的な場面が多くあることを理解することができるように、子どもたちが読み取りに選んだ全ての登場人物の人物像を板書にまとめるようにする。 	個／小集団／学級集団	30
<p>3 本時の学習を振り返り、次時の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物と自分を重ね合わせ比較する視点 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">次時への学習につなげることができるようにする。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・次時への学習につなげることができるように、選んだ登場人物の人物像と自分を比べるとどうかと問う。 	学級集団	10

活動の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・古典特有の語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知る。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を読んで、理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・『平家物語』の文学史をふまえ、学習課題を立てようとしている。 ・自分が理解したことや考えたことを積極的に交流しようとしている。

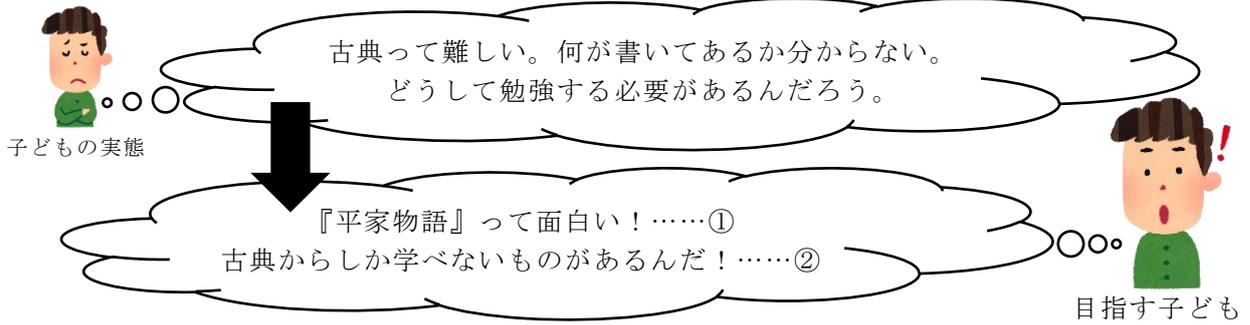
※ 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	時	学習活動	評価規準 (観点：方法)	指導の個別化 (手だて)
一	1 ①	1 学習課題を設定する。 (1)『平家物語』について知る。 (2)アンケート結果を共有する。 (3)学習課題を設定する。 なぜ私たちは『平家物語』を学ぶのか明らかにしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・『平家物語』の文学史をふまえ、学習課題を立てようとしている。 (態度：様相観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典を学ぶのはなぜだと思うか、古典を学ぶとどのようないいことがあると思うかを問う。
二	1 ②	2 『平家物語』を読み深める。 (1)『敦盛の最期』の内容を掴む。 (2)『扇的』『弓流』の内容を掴む。	<ul style="list-style-type: none"> ・古典特有の語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 (知：学習プリント) 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を当てはめて、漢字から古語の意味を連想するよう促す。
	2 ②	3 登場人物を選び、選んだ登場人物の人物像を明らかにする。 (1)その登場人物の人物像が表れている言葉や表現を探し、読み取った人物像と解釈を書く。 (2)登場人物の人物像と自分を比べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 (知：学習プリント) ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知る。 (知：学習プリント) ・「読むこと」において、文章を読んで、理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (思：学習プリント) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いの読みを確認する。 ・本文の横に現代語訳が対応している学習プリントを準備する。 ・「もし自分が同じ立場で同じ状況にあったらどのような行動を取るか」と問う。
	1 ②	4 学習課題に対する自分の考えを意見文にまとめる。 (1)『平家物語』の冒頭部分を音読し、内容を理解する。 (2)自分の考えを意見文にする。 (3)意見文を読み合い交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が理解したことや考えたことを積極的に交流しようとしている。 (態：様相観察) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「無常観」という人生観を理解できるように、コロナウィルス感染症の拡大や大雨・地震などの自然災害などを想起させ、目まぐるしく変わる現代にも通じる考え方であることを確認する。
三				

【見所】

○単元名「『平家物語』を学ぶ意味を明らかにする」

○子どもの実態と目指す子どもの姿



①のために、『平家物語』を読み物として楽しめるようにする。
 ②のために、『平家物語』の価値を味わわせるようにする。

○『平家物語』を読み物として楽しめるようにする。

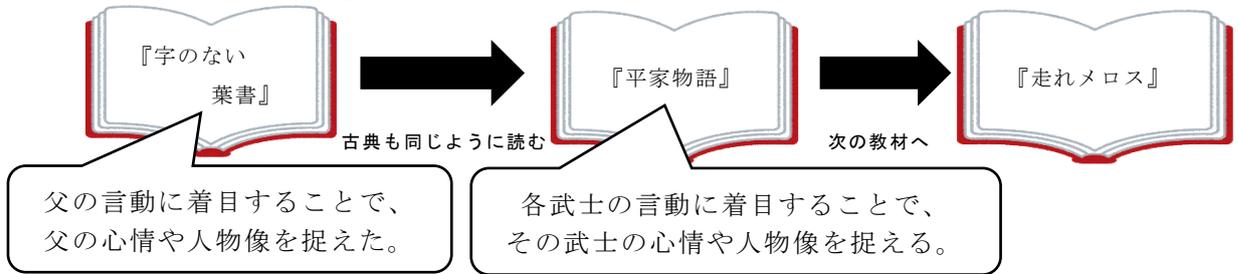
☆手だて：教材の精選（使用教科書以外の教科書からも、面白い場面を集めました）



☆手だて：学習プリントの工夫（読むのにハードルを感じないように、本文と現代語訳を対応させたり、言葉の説明を脚注に書くなどしました）

☆手だて：既習の読み方を活用

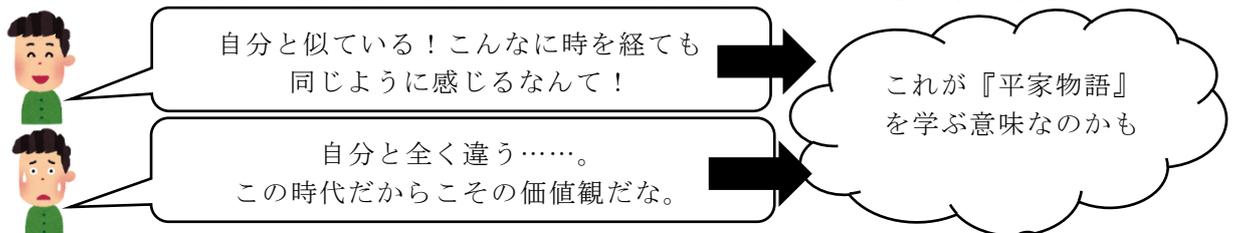
（『字のない葉書』で学習した読み方を『平家物語』でも使いました）



○『平家物語』の価値を味わわせるようにする。

☆手だて：自分と登場人物の人物像を比較

（自分と違っていても同じでも、それに気づくことが価値を味わうことにつながると考えました）



☆手だて：本文を深く読んだあとに冒頭部分を学習

（「無常観」の理解が深まると考えました）

